

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		美術Ⅱ	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 （思・判・表）主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 （主）主体的に創造的な諸活動に取り組み、美術文化に親しむ態度を養う。		
担当教員		荒屋澄枝		
年間授業時数		73.5 単位時間		
使用教科書		美術 2		
月	単元（題材） 名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4 5	【絵画】 アクション・ ペインティング	1 2	○絵の具を垂らす、画面にぶつけるなどして絵を表す。 ◆アクション・ペインティングの表現について知り、意図に応じて色や方法を選んで表す。 ◆アクション・ペインティングについて調べたことをまとめ、見方や感じ方を深める。	・生徒の実態に応じて、制作しやすい姿勢や道具の配置、形状に配慮する。
	【デザイン】 使う場面を考えて	1 4	○陶土を使い、生活で使えるものを作る。 ◆陶土の特性を理解し、作りたい形に応じた表現方法を工夫する。 ◆陶土を使った作品について調べ、自己の価値観をもって制作に生かす。	・生徒が扱いやすい資料を用意し、明確なイメージをもって制作できるようにする。
9 10	【映像メディア表現】 写真や映像に 思いを込めて	1 8	○デジタル機器を活用し、写真や映像を用いた作品を制作する。 ◆デジタル機器を使った表現方法を知り、主題に合った構想を練る。 ◆自己の価値観をもって作品について話し合い、作品の見方や感じ方を深めたりする。	・技法などを丁寧に説明し、自分で見通しをもって作業できるよう配慮する。
	【デザイン】 問題解決のための デザイン	1 3. 5	○話し合いをしながら、デザインを考える。 ◆造形的な視点について理解を深め、意図に応じた創意工夫をする。 ◆主題を生成し、自己の価値観を高めてデザインに対する見方や感じ方を深める。	・色や形の視覚効果など、既習事項を生かせるようにする。
1 2 3	【絵画・彫刻】 自己をあらわす	1 6	○今まで学んできたことなどから、自分が表したいことに合った方法で作品を作る。 ◆制作過程に見通しをもち、適切な表現を判断して作る。 ◆自他の作品に興味をもち、自己の価値観をもって作品について話し合い、作品の見方や感じ方を深めたりする。	・技法などを丁寧に説明し、自分で見通しをもって作業できるよう配慮する。

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		職業演習	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）実践的な体験学習を通して、働くための知識や技術の向上を図る。 （思・判・表）自分の能力や適性を的確に判断し、課題解決に活かすことができる。 （主）進路実現に向けて自ら取り組むべき課題を明らかにし、課題解決をしようとする主体的な態度を養う。		
担当教員		長岡優花		
年間授業時数		70 単位時間		
使用教科書		なし		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	オリエンテーション	25	○プレゼンテーション演習 ◆自己理解と自分にとって身に付けたい力を考える。 ◆働くことの意義や目的を理解する。 ◆求人求職、障害者雇用率、基本的労働条件、社会保障制度について理解する。	・実践形式を取り入れ、生徒同士で練習を行い、お互いに気付いたことを指摘し合うことで、気づきを促す。
5	自己理解と自己受容			
6	勤労観・職業観の確立			
7	職場での過ごし方と職業生活			
	学校における就労体験			
9	将来設計の立案と社会的移行の準備	30	○自分の将来設計と職業について考える。 ○自分のキャリアプランを作成する。 ○自分の進路を選ぶ。 ○データ入力 ◆自分の職業適性を考える。 ◆労働時のけがや病気から身を守る方法を知るとともに、職業生活を送るための自分の健康管理の方法について理解を深める。	・理解しやすい事柄を用いて目的を明確にししながら、職業適性を考えることができるようにする。
10	職業生活における健康管理			
11				
12	学校における就労体験			
1	休憩時間や余暇の過ごし方	15	○接客練習 ○採用面接演習 ◆職場での休憩時間や休日や余暇の過ごし方について理解を深める。 ◆基本的な職場でのマナーについて理解を深める。	・自ら活動を振り返る時間を設定し、次時の活動につなげられるようにする。
2	職場におけるマナー			
	採用選考			
3	学校における就労体験			

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		職業実習	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		(知・技) 勤労の意義について理解し、職業生活に必要な能力を高める。 (思・判・表) 自分の生活をデザインする力、情報や社会資源を活用する力を高め、問題解決に向けて多様な視点で考えることができる。 (主) 基礎的・汎用的能力である、人間関係形成能力、自己管理能力、キャリアプランニング能力の向上を図る。		
担当教員		長岡優花 福島聡		
年間授業時数		70 単位時間		
使用教科書		なし		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	営業職実習	24	○産業現場等で行われている作業の学校における就労体験 ・ 宣伝営業 ・ 受注 ・ 注文集計 ・ 発注 ・ 物品輸送 ・ 納品、配達 ・ 接客 ・ 電話を使った注文、報告、連絡 ・ 顧客の状況を考慮し、ニーズに対応する実習 ◆他部署、他会社などの立場を推測、考慮し、それに対応した営業計画を立てて行動する。 ◆問題解決力、調整力をつける。	・実践形式を取り入れ、生徒同士で練習を行い、お互いに気付いたことを指摘し合うことで、気付きを促す。 ・自ら活動を振り返る時間を設定し、次時の活動につなげられるようにする。
5				
6				
7				
9	事務職実習	26	○産業現場等で行われている作業の学校における就労体験 ・ 挨拶文や依頼文書など、基本的なビジネス文書の作成 ・ データ入力 ・ 表計算ソフトを使った資料作成 ・ 名刺作成 ◆お互いのできる部分を活かし、難しい部分を補い合う。 ◆部署内で協力し合い、スムーズに作業を進める。	・連想しやすい身近な事柄を用いて、文面を分かりやすくする。 ・定型文を用いて、簡単に作成できるようにする。 ・一定期間、同じ作業種を継続して行えるようにする。
10				
11				
12				
1	作業職実習	20	○産業現場等で行われている作業の学校における就労体験 ・ 仕分け作業 ・ 清掃作業 ・ 作業の正確性を高める実習 ◆作業への集中力と持続性を高める。 ◆適度な緊張感の中で作業に取り組むことを通し、就労後のイメージをもつ。	・作業手順を理解しやすいよう、視覚的な支援を丁寧に行う。 ・計画的に作業を進められるようにする。
2				
3				

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		家庭総合	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		(知・技)生活を営むために必要な科学的な理解とその技能を総合的に身につける。 (思・判・表)家庭や地域社会の生活から課題を見出し、課題を解決する力を身につける。 (主)様々な人と協働し、よりよい社会に向けて生活の充実を図ろうとする態度を養う。		
担当教員		上野はつえ		
年間授業時数		70 単位時間		
使用教科書		未来へつなぐ 家庭総合 365（教育図書）		
月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	ガイダンス	6	○1年間の学習予定を把握する。 ◆家庭総合の学習に見通しをもつことができる。 自立に向けて身につけたい力を考える。(主)	・シラバス、学びの地図を呈示する。
5	食生活と健康 (実習含む)	16	○栄養素と食品、食品の安全について知る。 ◆栄養素、安全について踏まえたうえで献立を立て、調理計画を立てることができる。(知・技) ◆工夫によっておいしく調理したり食べたりすることができることに気づき、工夫できる。(思・判・表)	○生徒が考えた献立や調理方法を実践し、実体験に基づいて気付いたり考えたりできるようにする。
6			○持続可能な食生活や災害時の食事について考える。 ◆持続可能な食生活や、災害時の食事を実践するために工夫できる。(思・判・表)	・インターネット等で情報収集をし、お互いの考えを聞く機会を設ける。
7	衣生活と健康	3	○衣服の計画・管理について理解する。 ◆自分に合う衣服について考え実践する。(知・技) ○実生活の衣生活の課題を見つけ、その解決策を考え、実践する。 ◆衣生活の課題を設定し解決策を工夫できる。(思・判・表)	・動画などの教材を用意し、実際の場面を想像できるように配慮する。 ・洗濯・アイロンがけの実習を含む。
9	ホームプロジェクト	6	○生活上の課題を設定し、解決に向けて探求する ◆課題を設定し、解決策を工夫できる。(思・判・表)	・具体例を用意し、想像しやすくする。
10	衣服・布を用いた小物の製作	14	○被服実習 ◆製作に必要な、用具を安全に扱うことができる。(知・技)	・使いやすい道具などを把握し、準備する。
11				
12	住生活と住環境	7	○人と住まいとのかかわりや住まいの機能について理解する。将来の生活を考えて住まいを想像する。 ◆自分の住まいについて、課題を見つけ工夫できる。(思・判・表)	・インターネット等を活用して情報収集し、暮らしを想像しやすくする。
1	生活における経済の計画、生涯の生活設計	6	○家計のしくみについて理解し、家計は社会と密接にかかわっていることを知る。 ◆例や自分の将来を考えて問題を見出し、その課題を解決することができる。(思・判・表) ○生活資源とライフスキルについて理解する。 ◆将来の生活に向かって目標を立て、自分らしい生活を設計することができる。(主)	・シミュレーション教材を活用して、理解を深めやすいよう工夫する。 ・今までの学習を踏まえたまとめとして学習できるように工夫する。
2	消費生活と意思決定	6	○消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解する。 ◆自分の消費行動について客観的に考えることができる。(思・判・表)	
3	持続可能なライフスタイルと環境	6	○環境問題について基本的な内容を理解する。 ◆自分の消費行動が社会に与える影響について理解し、どう行動したらよいかを考えることができる。(思・判・表)	・ニュースを調べるなど、情報収集を工夫する。

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部		学 年	3 年
教科等名		情報演習		学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ピ）
ねらい		(知・技)社会を支える情報技術の役割や影響を理解し、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技能を習得する。 (主)情報技術の進歩が人間や社会に及ぼす影響を理解し、その特性を踏まえた適切なルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識と技能を習得する。 (思・判・表)基本的なアルゴリズムを理解し、簡単なプログラムの作成方法を習得する。			
担当教員		福島聡			
年間授業時数		70 単位時間			
使用教科書		なし			
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）		指導の工夫
4	情報システムが支える社会	15	○年間を通して Word、Excel、PowerPoint の演習を取り入れる。 ○情報社会と情報システム ◆情報社会の現状について理解する。 ○情報社会における法律 ◆知的財産権について理解する。		・生徒の実態に応じながら実習を通して学習していく。
5					
6	ネットワークがつなぐコミュニケーション①	10	○メディアとコミュニケーション ◆メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 ◆インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。		・身近な題材や好きなことに関する素材を活用する。
7					
9	コンピュータによる情報の処理と表現	15	○コンピュータと情報処理 ◆コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ○情報のデジタル化 ◆アナログとデジタルの違いについて理解する。		・毎時間の課題の設定を明確にする。
10					
11	ネットワークがつなぐコミュニケーション②	10	○情報通信ネットワーク ◆情報通信ネットワークの構成について理解する。		・自分で操作できる場面を増やせるよう、手本を示したり、言葉がけを行ったりする。
12					
1	モデル化と問題解決 問題の解決と処理手順の自動化	10	○問題解決 ◆問題解決の手順について理解する。 ○データの活用 ◆表計算ソフトの活用方法について理解する。 ○プログラミングの方法 ◆アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法の理解。		・「micro:bit」や「動かしてみよう」などの開発環境も利用して学習する。
2		10			
3		10			

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		体育	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解し、高度な知識や技能を深める。 （思・判・表）運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育む。 （主）健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。		
担当教員		新田真 福島聡 長岡優花 上野はつえ 荒屋澄枝 笠原陸		
年間授業時数		106.5 単位時間		
使用教科書		最新高等保健体育（大修館書店）		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	体づくり運動	3.5	○ストレッチ、サーキット運動 ◆身体の各部位を意識して動かすことができる、または動かそうとしている。（主）	・手本を示し動作を取り入れ模倣できるようにする。
5	陸上競技	3	○課題走、スラローム走、リレー走など ◆自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。（思・判・表） ◆記録の向上をめざし主体的に運動へ参加する。（主）	・道具を呈示し、主体的に課題を発見できるようにする。 ・徐々に教職員の補助を減らす。
6		8		
7		5		
9	水泳	6	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。（知・技） ◆様々な浮き方や泳法の基礎となる動きを身に付けることができる。（知・技）	・浮き具を使用することで、水中での不安を軽減できるようにする。 ・始めは動きを補助し、徐々に一人で反復できるようにする。
10		8		
11		12		
10	武道（空手） ※東京 2025 デフリンピック理解	10	○空手の歴史、基本動作、形など ◆空手の歴史や基本動作・形などについて知り、理解を深めることができる。（知・技） ◆自己の課題を理解し、練習に取り組むことができる。（主）	・ICT 機器を使用し動作を分割して分析できるようにする。 ・個の実態に応じた道具の設定を行う。
11		6		
11	けがや疾病の予防	6	○応急手当やAED ◆止血、患部の保護、AED について知る。（思・判・表）	・模型やトレーナーを使用して、五感で内容を理解できるようにする。
12	ダンス	11	○リズム体操、創作ダンス ◆身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。（思・判・表）	・大画面のプロジェクターを使用する。
1	球技（ハンドサッカー）	10	○ドリブル、パス、シュート ◆自己の課題を見つけ取り組める。（思・判・表） ◆友達と協力して練習や試合に参加することができる。（主）	・タブレット端末で動きを撮影し、振り返ることができるようにする。 ・ルールを確認しながら練習や試合を進める。
2		12		
3		6		

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		総合的な探求の時間	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）各教科等で身に付けた知識や技能を活用することができる。 （思・判・表）集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝える力を育む。 （主）探求活動に主体的、協同的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えることができる。		
担当教員		長岡優花 福島聡		
年間授業時数		35 時間		
使用教科書		なし		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	学習グループオリエンテーション 話し合い活動 生徒会活動 学習グループ校外学習事前学習、事後学習 学期のまとめ	13	○学習・行事予定の確認 ◆見通しをもって、活動に取り組むことができるようになる。 ○生徒会活動 ◆主体的に話し合いに参加できる。 ◆学部行事の企画、運営を行うことができる。 ○校外学習事前・事後学習 ◆意欲的に自分の役割に取り組むことができる。行程を理解し、見通しをもつことができる。 ○学期のまとめ ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付くことができるようになる。	・デジタルやICT機器を活用しながら、学びの過程を自ら決定し、思考のスキルを身に付けられるようにする。 ・活動内容や役割分担を明確にする。 ・生徒会活動における話し合いの場面では、「気付き」を促す言葉掛けを行い、体験的に学習できるようにする。
5				
6				
7				
9	話し合い活動 生徒会活動 学期のまとめ	14	○自己理解・他者理解（話し合い活動） ◆様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に表現することができる。 ○生徒会活動 ◆主体的に話し合いに参加できる。 ◆学部行事の企画、運営を行うことができる。 ○学期のまとめ ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付くことができるようになる。	・自分の意見や考えを整理して、集団の中で伝えられるよう、発表の機会を多く設ける。
10				
11				
12				
1	話し合い活動 生徒会活動 1年間のまとめ	8	○生徒会活動 ◆主体的に話し合いに参加できる。 ◆学部行事の企画、運営を行うことができる。 ○1年間のまとめ ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付くことができるようになる。	
2				
3				

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		特別活動・ホームルーム活動	学習グループ（教育課程）	
ねらい		（知・技）様々な集団行動を行う上で必要となることについて理解する。 （思・判・表）様々な場面で自分と異なる考えにある多様な他者を尊重して認め合い支え合う。 （主）自主的、実践的な集団活動を通して身に付けことを生かして自己実現を図ろうとする態度を養う。		
担当教員		飯田拓 長岡優花 荒屋澄江 津田直子 吉田暁洋 黒田夢乃 笠原陸 荒谷秀幸 CG 笠倉美重子 CG 林英美 CG		
年間授業時数		38 単位時間		
使用教科書		なし		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	高3年のスタート	15	○3年生の集団紹介、1年間の行事紹介、係り活動決め等 今年度の活動や友達・教職員を知り、新たに始まる学校生活を意識する。	・学年の友達との関わりを通して、豊かな人間関係を築けるような活動を設定する。 ・行事に合わせた活動を設定する。 ・活動内容を生徒が決める等、個々の自主性を引き出せるようにする。
5	体育発表会に向けて		○体育発表会に向けて練習や準備を行う。 ◆本番に備えて期待感を膨らませる。	
6	レクリエーション活動		○ペーパー相撲等のレクリエーション ◆友達同士で協力して関わりを深める。	
7				
9	レクリエーション活動	14	○だるま落とし等のレクリエーション ◆友達同士で協力して活動することを通じて、関わりを深める。	
10	虹輝祭にむけて		○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。	
11			◆行事を振り返り成功体験を生徒間で共有する。	
12	学期のまとめ		○2学期の学習活動、また個人の成長を振り返る。 ◆次学期につながる振り返りを行う。	
1	レクリエーション活動	9	○坊主めくり等のレクリエーション ◆友達同士で協力して関わりをさらに深める。	
2	卒業に向けて		○一年間の学習活動、また個人の成長を振り返る。	
3			◆学校生活を振り返ることで卒業後の生活に繋げる。	

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高学部	学 年	3 年
教科等名		国語表現	教育課程	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、活用することができる。 （思・判・表）言葉での確かつ効果的に表現する能力を育成し、他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。 （主）共感したり想像したりする力を伸ばし、自ら表現することを通して、言語文化の担い手として、社会生活の充実を図る態度を育てる。		
担当教員		長岡優花		
年間授業数		70 単位時間		
使用教科書		国語表現		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	伝える、伝え合う	6	○他己紹介をしよう ○マイニュース記事を書こう ◆自分の考えを的確に表現する。	・生徒の実態に合わせながら、オンライン授業や課題提出ができるように、Teams を活用する。 ・論理的文章を書くための基礎・基本を学習してから実践に入る。 ・生徒が想定しやすいように具体的な場面を設定し、体験的に学習できるようにする。 ・話し合い活動を多く取り入れて、自己理解と他者理解を指導する。 ・生徒の様子をよく観察し、その場ですぐに褒めて、自己肯定感の向上につなげる。
5	メディアを駆使する	8	○通信文を書き分ける ○手紙のいろいろ ○電話を使いこなす ○電子メール ◆コミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に活かす。	
6	自己 PR と面接	9	○自分を見つめて ○効果的な自己 PR ○面接 ◆自己を知ることによって様々な表現の土台を作り、進路や社会と自分の関係を考える。	
7	表現を楽しむ	5	○言葉で遊ぶ ○ポスター作り ◆多種多様な言葉の世界を体験しながら、音の響きや意味の広がり豊かなさを学ぶ。	
9	言葉と出会う	7	○言葉と表記 ○わかりやすい文を書く ○文のつながり ◆基本的な表記の決まりや正しい使い方を理解する。	
10 11	小論文・レポート入門	12	○小論文とは何か ○反論を想定する ◆小論文の特徴について理解し、テーマに沿って書く力を身に付ける。 ○文章を読み取って書く ○課題文型小論文 ◆文章の「型」を習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。	
12	会話・議論・発表	7	○グループディスカッション ○スピーチをしよう ◆声を発する具体的な場面を想定した学習を通して、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。	
1	読書の広場	6	○ビブリオをしよう ◆自分の考えを的確に伝える。	
2 3	表現を楽しむ	13	○模擬裁判をしよう ◆根拠を理解しながら聞き取る。議論を通して考えを広げる。	

令和 7 年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		論理国語	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、活用することができる。 （思・判・表）論理的・創造的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 （主）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする主体的な態度を養う。		
担当教員		長岡優花		
年間授業時数		70 単位時間		
使用教科書		高等学校 標準論理国語(第一学習社)		
月	単元（題材） 名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	理解編Ⅱ クマを変えて しまう人間	5	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆筆者の体験談から主張を読み取る。	・主題を導き出すキーワードを見つける。 ・筆者の主張や問題提起に線を引き、分かりやすくする。 ・文語表現を丁寧に解説する。 ・他の実用的な文章も用意し、多く触れられるようにする。 ・難しい言葉は、辞書を引いて確認するようにする。 ・筆者の作品（絵）を紹介し、内容理解の助けとする。 ・繰り返し音読して、理解の定着を図る。 ・ワークシートを活用し、読解を深める。 ・文体や修辞などの表現上の特色について丁寧に指導する。
5	理解編Ⅱ コミュニケーションの文化	6	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆文章構成や事例をもとに筆者の主張を読み取る。	
6	理解編Ⅱ SNS と意見の 分極化	8	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆論展開を把握して考えを深める。	
7	理解編Ⅱ 新しい 博物館を	6	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆各段落の役割や関係を把握しながら読む。	
9 10	理解編Ⅱ 僕らの時代の メディア・ リテラシー	13	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆筆者の主張の要点を理解し、考えを深める。	
11 12	理解編Ⅱ 経験の教え について	13	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆論理的文章の構成の型の理解を深める。	
1	理解編Ⅱ 科学技術は 暴走している のか	6	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆筆者の捉え方をふまえ、自分の考えを広げる。	
2 3	理解編Ⅱ 支え合うこと の意味	13	○音読、新出語句、漢字 ○読解、話し合い活動 ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。 ◆抽象的な表現の意味を理解しながら読む。	

令和 7 年度 東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部		学 年	3 年
教科等名		政治・経済		学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		(知・技能)自己を取り巻く社会の成り立ちを知り、環境と自己、他者との関係について真摯に考察する力を身に付ける。 (思・判・表)過去、現在、未来の自己を多角的に分析し、社会人として自立していく考え方を身に付ける。 (主)よりよい社会の実現のために、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、国民主権を担う公民として、国家及び社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。			
担当教員		木下徹			
年間授業時数		70 単位時間			
使用教科書		最新政治・経済 新訂版（実教出版）			
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫	
4	日本国憲法と現代社会のあり方 ・立憲主義 ・基本的人権の保障と日本国憲法 ・三権分立 ・地方自治	24	○民主政治の基本原理 ◆民主政治の成立過程を知り、現代社会に必要とされる基本的人権の意義を理解する。 ○日本国憲法の基本原理 ◆日本国憲法の基本原則と立憲主義の意義を理解する。 ○政治機構と国会 ◆三権分立とその基本的な意義を理解する。	・生徒個々の四肢機能や学習進度を確認しながら、発問の仕方や筆記の方法を設定する。 ・政治体制や選挙のシステムなど現実の政治参加を念頭におき、社会に対する生徒個々の主体的な捉え方を導き出す。	
5					
6					
7					
9	・経済活動と市場 ・物価と景気動向 ・財政の仕組みと租税の意義 ・金融の仕組みとはたらき	28	○経済社会の変容 ◆経済の意義を知り、日本の経済と福祉の在り方を考察する。 ○財政の仕組みを知る ◆財政の仕組みを知り、日本社会の基盤について考える。 ○金融の仕組み ◆金融の仕組みを理解して、実生活の経済活動について考えられるようになる。		
10					
11					
12					
1	・現代社会の諸課題 ・国際政治の動向と課題 ・国際経済の動向と課題。 SDG s の実現に向けて	18	○国際政治の動向を知る ◆国際政治の動向、国同士の経済の問題等を学習して、持続可能な社会について考える ○雇用と労働をめぐる問題、地球環境問題 ◆雇用の諸課題と地球規模の環境問題（人口、食糧等）を考察する。		
2					
3					

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部		学 年	3 年
教科等名		産業社会と人間		学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）社会生活に必要な力についての知識や技能を身に付ける。 （思・判・表）心身ともに豊かな社会生活を送るために考えを広げることができる。 （主）自己を認識し、自ら将来の自分や社会について考える態度を養う。			
担当教員		長岡優花			
年間授業時数		40 単位時間			
使用教科書		なし			
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫	
4	オリエンテーション 自己理解 自分の将来の生き方や進路	14	○キャリアガイダンス ○就労体験ガイダンス ○自分の生活を見直そう ○ライフプラン(卒業後の自分)設計 ◆就業体験の目的や学習内容を理解し、望ましい勤労観、職業観を培う。 ◆自分の長所や短所を客観的に考え、理解することができるようになる。 ◆読み手を意識し、お礼状を書く。 ◆社会で働く先輩の講話を聞き、高等部卒業後の生活に対して、具体的なイメージをもてるようになる。	・自分の考えをまとめたり、振り返ったりしやすいように、ワークシートを用意する。 ・自分の長所短所を客観的に理解できるよう、グループ内でも評価をし合う。	
5					
6					
7					
9	社会生活への参加に向けて 弁論文作成	14	○就労体験ガイダンス ○進路講話会 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ○社会との関わりについて ◆社会生活や職業生活に向けて必要な基本的な知識と態度を身に付ける。 ◆社会で働く先輩の講話を聞き、自分の課題や目標について具体的に考えるようになる。 ○キャリアに関わるポートフォリオの作成 ◆進路と向き合い、現実的な将来観をもつとともに、その実現に向けた計画が立てられるようになる。 ◆キャリアプランニング能力を高める。	・ロールプレイ等を取り入れ、体験的に学習が進められるようにする。 ・弁論文作成時に書き始める前に、考えるためのメモを作成する。	
10					
11					
12					
1	次年度に向けて	12	◆就業体験実習や様々な進路活動などの体験から学んだことをまとめ、発表できる。 ○今年度の振り返り ◆成長した点、まだ改善に向けて努力が必要な点を把握し、次年度の学校生活につなげられるようにする。 ◆物事を客観的に捉え、論述文が書けるようにする。	・自分の学んだことを発表する機会を設ける。 ・自己評価、他己分析を通して、自身の成長を客観的に振り返られるようにする。	
2					
3					

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部		学 年		3 年	
教科等名		数学応用演習		学習グループ (教育課程)		C (準ずる・総ビ)	
ねらい		(知・技)演習を通して、数量に関する概念や原理、法則についての理解を深める。 (思・判・表)数学的な表現や処理の仕方を習得する。 (主)事象を数学的に考察する能力を高める。					
担当教員		福島聡					
年間授業時数		7 5 単位時間					
使用教科書		なし					
月	単元 (題材) 名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい (評価の観点)			指導の工夫	
4	数と式 二次関数 様々な四則計算	2 7	年間を通して、生徒の実態に合わせて学習する。 ○数と式、2次関数、様々な四則計算 ・整式の理解と活用 ・根号を含む式の計算 ・不等式の計算 ・関数とグラフ ・2次関数の値の変化 ・四則計算 (数と式や2次関数で使用) ◆単項式や多項式、整式について理解して整式の加法や減法ができる。 ◆不等式の性質を理解して1次方程式をこくことができる。 ◆関数の意味、グラフとの関係を理解する。 1次関数、2次関数のグラフが書け、最大値、最小値の意味を理解する。2次関数と2次方程式、2次不等式の解の関係を理解する。			・負の数の計算、分数・小数の計算など、生徒の実態に応じて年度初めに基礎的な計算の復習をする。 ・単元のはじめに、ポイントを整理して、既習の内容を振り返る。 ・生徒個々の実態に応じて、時間配分を調整する。	
5							
6							
7							
9							
10	図形と計量 ・三角比 ・三角比と図形の計量	2 7	○図形と計量 ◆正接・正弦・余弦の意味、三角比の相互関係などを理解できるようにする。 ◆三角比を用いた三角形の面積の公式や正弦定理・余弦定理について学習し、それらを用いて、平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさおよび面積などを求められるようにする。				
11							
12							
1	微分と積分	2 1	○微分と積分 ・平均変化率、微分係数、導関数 ・不定積分、定積分、面積 ◆微分係数や導関数について理解し、関数の導関数を求めたり、曲線上の点における接線の方程式を求める方法を学ぶ。 ◆微分の逆演算として不定積分を考え、2次までの多項式関数の不定積分を求められるようにする。				
2							
3							

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学年	3年
教科等名		化学基礎	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）実験、観察などを通じて化学反応に関する基本的な概念や法則を理解する。 （思・判・表）原子の構造及び電子配置と周期律の関係、化学結合と物質の性質との関係を理解する。 （主）化学と人間生活との関わりに関心を高め、化学が人間生活に果たしている役割を理解する。		
担当教員		櫻井 泰子		
年間授業時数		71 単位時間		
使用教科書		改訂 新編化学基礎（東京書籍）		
月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容、ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	化学と人間生活	2	○物質と人間生活、化学とその役割、歴史 ◆日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通じて、化学に対する興味・関心を高める。 ◆日常生活や社会において物質が適切に使用される例を通じて、化学が果たしている役割を理解すること。	・日常生活や社会との関わりが特に深い事例を取り上げる。
5	物質の探求	10	○物質の分離に関する種々の化学的方法と操作、状態変化、熱運動 ◆物質の分離、成分元素の確認、物質の性質観察などの基本的な実験操作を習得する。 ◆粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解。 ○原子の構造、電子配置と周期表 ◆原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解。 ◆元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族と周期との関係を理解。	・原子のモデルを使い、原子の構造及び電子配置のイメージをもちやすくする。
6	物質の構成粒子	5		
7	物質の構成粒子	5		
9	物質と化学結合	15	○イオンとイオン結合、金属と金属結合、分子と共有結合 ◆イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解すること。 ◆金属結合及び金属の性質を理解すること。 ◆共有結合を電子配置と関連付けて理解すること。分子からなる物質の性質を理解すること。	・ICT 教材を活用して、微視的な物質の見方ができるようにする。
10	物質と化学結合	5		
11	物質と化学変化	16	○物質と化学変化 ◆物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 ◆化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。	・相対質量の考え方を定着させる。 ・指数の表し方を確認する。
12	物質と化学変化	6		
1	酸と塩基	13	○酸・塩基と中和 ◆酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 ○酸化と還元 ◆酸化と還元が電子の授受によることを理解する。酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。	・実験、観察を通じて物質の量的関係や電子の授受について考えられるようにする。
2	酸化還元反応	10		
3	酸化還元反応	0		

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	3 年
教科等名		英語コミュニケーションⅡ	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・総ビ）
ねらい		（知・技）「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を伸ばし、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力や基礎的な英文法を習得する。 （思・判・表）世界の言葉、文化、民族を知り、全員が調和を保ち共生する方法や大切さを考える。 （主）英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。		
担当教員		飯田拓		
年間授業時数		7 1 単位時間		
使用教科書		VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	Lesson5 Mont-Saint-Michel	2 5	○「モン・サン・ミシェルについての概要」の英語長文読解・英文法 ◆現在完了進行形／過去完了形／過去完了進行形に関する事項を理解している。	・学習状況に応じて、プリントなどの課題を用意する。
5				
6	Lesson6 Smart Agriculture		○「スマート農業についての概要」の英語長文読解・英文法 ◆現在完了形の受け身／助動詞＋受け身に関する事項を理解している。	・定型文を使ったり、音読を行ったりして英語を話す機会を増やす。
7	ALT		○ALT ◆自発的に英語を使ってやり取りする。	・練習問題などを取り入れ、文法への理解を深める。
9	Lesson 7 A Martial Art on Tatami	2 6	○「競技かるたについての概要」の英語長文読解・英文法 ◆関係代名詞の非制限用法／関係代名詞 what に関する事項を理解している。	・教科書の表現を使い、自分の考えを発表する。
10				
11	Lesson 8 Biologging		○「バイオロギングについての概要」の英長文読解・英文法 ◆分詞構文／強調構文に関する事項を理解している。	・間違いをおそれずにALTと英語で話せるよう助言をするなど、話しやすい雰囲気を作る。
12	ALT		○ALT ◆自発的に英語を使ってやり取りする。	
1	Open Window	2 0	○リーディング教材を読んで、あらすじを理解したり、文章全体の要点を理解する。 ◆単語と本文の意味を理解した後、文章全体の流れを理解する。	
2	The Christmas Truce			
3	My dream ALT		○ALT ◆自発的に英語を使ってやり取りする。	

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学年	3年
教科等名		自立活動	学習グループ(教育課程)	C(準ずる・総ビ)
ねらい		(知・技)自分の身体の状態を理解し、必要な知識を身に付ける。 (思・判・表)自分に必要な手立てを相談し、考え実行することができる。 (主)自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服ができる。		
担当教員		福永映子 小泉虹華 長岡優花 福島聡		
年間授業時数		71単位時間		
使用教科書		なし		
月	単元 (題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	指導の工夫
4	身体 の 取 り 組 み	25	○身体の手組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。	・校医(整形外科)、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・鏡を活用し、姿勢を確認できるようにする。
5				
6				
7				
9	身体 の 取 り 組 み	26	○身体の手組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、膝歩き、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行、階段昇降 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆骨盤を起こして保持を行う。 ◆体幹を伸展させて座位を行う。 ◆重心を前方へ移しながら立ち上がる。 ◆足で踏ん張りバランスをとる。 ◆体幹・骨盤を回旋させて歩行を行う。	・校医(整形外科)、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・歩行器等の教具を使用する。
10				
11				
12				
1	身体 の 取 り 組 み	20	◆手すりにつかまり1足2段で階段昇降を行う。 ○身体の手組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、膝歩き、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行、階段昇降、上肢操作 ◆筋緊張を緩めて筋を伸ばす。 ◆膝の中間の使い方を理解する。 ◆体幹を回旋させてバランスをとる。 ◆障害物に対応しながら歩行を行う。 ◆手すりにつかまり1足1段で階段昇降を行う。 ◆両手を使って教材を操作する。	・校医(整形外科)、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・iPadやパズル等の教材を使用する。
2				
3				